

会 議 錄

附属機関又は会議体の名称	第6期第7回 豊島区環境審議会		
事務局（担当課）	環境清掃部 環境政策課		
開催日時	令和7年11月11日（火）10時00分～12時00分		
開催場所	豊島区役所本庁舎5階 509、510会議室		
議題	1 開会 2 議題 (1) 2024年度における「豊島区環境基本計画 2019-2030」の進捗状況 (2) 2024年度における「豊島区環境基本計画 2025-2030」の進捗状況 3 その他 (1) 高校生による施策提案の実施状況と成果発表 (2) 大学生による取り組みの実施状況と成果発表 4 閉会		
公開の可否	会議	■公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	傍聴人数 5名
	会議録	■公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	
出席者	委員	蟹江憲史、関礼子、岡山朋子、高橋正弘、村山顕人、柳井重人、天野純子、小川巧、島沢明史、深澤浩一、岡村弘孝、小堀大藏、水埜多喜子、村上政美、増子嘉英（環境清掃部長）（敬称略）	
	その他	施設整備課長（代理出席）、環境保全課長、ごみ減量推進課長、豊島清掃事務所長、生活衛生課長、都市計画課長、地域公共交通担当課長、土木管理課長（代理出席）、道路整備課長、公園緑地課長、庶務課長、学校支援担当課長（代理出席）	
	事務局	環境政策課長、環境政策担当係長（環境計画・事業）、同主事2名	

審議経過

【開会】

○会長

ただいまより、第6期第7回豊島区環境審議会を開会いたします。

○環境政策課長

資料の確認

○会長

それでは、議題の方に移らせていただきます。

事務局からご説明のほどよろしくお願ひします。

○環境政策課長

資料第7-1号、資料第7-1号（別紙）、資料第7-2号説明

○会長

ありがとうございます。非常に包括的な内容でたくさんのポイントがあったと思います
けれども、今ご説明いただいた点についてコメントそれから質問をお受けしたいと思
います。

○委員

私の専門にあたる基本目標Ⅲの資源循環のところで、レーダーチャートで前回はたしか
Cで今回はD-と大変酷い結果・評価となっております。なぜこういう評価かというと
ころですね。講座ができなかったとか、イベントをやらなかつたとかそういうことであつ
て、実質的な資源循環でどれだけ進んだかという評価ではないというのは承知しました。
そこで一つ提案というかお願ひなのですが、例えばこの中でもしっかりとやっている部分
において、この町会・清掃担当者との意見交換、リサイクル・清掃関係施設見学会の開催
回数については、当初の計画通り行われているということがあります、豊島区さんが始
めたプラスチックの回収、プラスチックの回収量自体が非常に上がっておりますが、一方
でリサイクラーにおいては2月に火災を起こしています。

豊島区のプラスチックによるものではないと思うのですが、今プラスチック製品と、容
器・包装両方とも一緒に収集するようになって、全国的にもリチウムイオン電池が内包さ
れている家電に関しての火災事故が頻発しております。こういった施設、リサイクル施設
あるいはパッカー車の中で火災を起こすという事故が非常に多く起こっている中で、ぜひ、
地域・町会の皆様に、リサイクル事業者に機会があれば足立区の工場があるのでそちらもぜひ見
学していただきたいと思います。自分たちが出したものが、一体どこにどうや
ってどういうふうになっているのかをぜひ見ていただきたいなというのが一つです。

もう一つリユース食器についてですが、ほとんど使われていないということですが、リユースを進めるというのは今回の計画の中でも資源循環計画の中でも肝の一つに入っていると思います。このリユース食器を使ってできるだけ容器を減らすという取り組みが非常に重要で、例えば区内にある大学の学祭に提供がされていない、あるいは積極的に使ってもらえるよう働きかけていただけといいかなというのが一点です。と同時に、洗浄がどうなっているかお聞きしたいです。つまり、大阪万博でもやりましたけれども、リユースカップ、リユース食器を持っているところに一括で借りて、そこに全部お返しするシステムなのか、それとも洗浄して返すということになると全然話が変わりまして、後者の仕組みになっていると多分これは進まないだろうなと思われるわけです。使われやすい仕組みを整えていただけといいかなと思います。

○ごみ減量推進課長

プラスチックの施設については、委員がおっしゃる通り 3 月にリチウムイオン電池の火災がありました。これは区から出たリチウムイオン電池ではなくて、別の場所から集めてきたものを適切に保管していたのですが、何かの弾みで爆発したということがありました。確かにご指摘通り、そういう施設を区民の方に見てもらって、自分たちの出したプラスチックがどのように変化して、どのように使われてまた再度使われていくのかというのは、良い普及啓発の一つになると思いますので、実現できるように、今ちょうど最終処分場を見てもらったり、清掃工場を見てもらったり、そういう見学はしています。リユース食器については、コロナ禍というのもありなかなか使われなくなりました。また、催し物自体で使われなくなった、そういうことで少し（数字が）落ちているところもあります。実際にリユース食器というのは、洗浄して保管を区の方でまとめてやっているのですけれども、ここ数年積極的にやっていないこともあり、使ってくださいというような、確かに普及啓発自体も少なかったのかなというところは反省もしていますが、やはりなかなかコロナ禍より前の状態に戻らないというのもあるので、今後のやり方等については検討していきたいと思います。

○委員

先程のご質問と重なるところがありますが、資料第 7-1 号を見て、やはり私も資源循環分野の取組指標の評価が D- であることについては何が原因だろうと思いましたが、やはり講座やイベント関係だったので、これはコロナが影響しているというのは理解できました。

さらにリユース食器の話ですが、区民ひろばは小学校区に一つ、区内 22ヶ所あります。その区民ひろばで毎年 1 回、おそらくどのひろばも「区民ひろばまつり」というイベントをやっていると思います。私は西巣鴨に住んでおりまして、今年 10 月のイベントでもお茶を出したのですが、衛生上のこともあり紙コップを使ったので、ごみが結構出てしまいました。何とかこれをリユース食器にできないかと区民ひろばへ提案したいと思いつつ、区のどこに連絡すればよいかわからないことと、洗浄の問題ですね。洗って返却するの

か、そのままで良いのか、民間でもそのまま返却できるところもあります。また豊島区の場合は、無料で貸し出していくだけなのか、というのが質問です。そのまま戻せたら戻したい。なぜかというと、区民ひろばの委員の方は高齢化が進んでおり、洗浄は負担が大きいので、貸していただけようであればそのまま返せるような仕組みを作っていただきたいというのが区民としての希望です。

また、ごみや資源の分別についての詳細な周知のために紙ベースで毎年配ってくださっていますが、それでもわからないことがあると電話で尋ねることができます。先日も清掃事務所に電話して驚いたことがありました。ポンプ式やスプレー式のボトルは中にコイル等が入っているので金属が含まれますが、どうやって分別したらいいのか尋ねましたら、「ボトルと一緒にプラスチックの資源として出してください」ということでした。重箱の隅をつつくような例で申し訳ないのですが、同じような問い合わせのデータがあると思うので、データをためて更新をしていただけたらなと思います。

それから区でやればすぐできるのではないかと思うのですが、発送する際の封筒など、例えば保健所からこちらのように窓の空いた封筒でいろんな案内を出しておられます。最近の企業の封筒は窓が空いているものだと「窓の部分にグラシン紙を使用しておりますので、はがさずにそのままリサイクルできます」と書いてあることがあります、豊島区の場合は記載がないですし、紙自体にも古紙を使っているのかわからないです。一番気になっていたのが、広報誌です。とても読みやすくなつてありがたいのですが、東京都や他区では100%や70%を古紙リサイクルしています、という「Rマーク」などが記載しています。おそらく豊島区でも古紙を使っているのではと思うのですが、いつになつたらこのようなわかりやすい表記がされるのかなと。以前から気になつていてことを述べさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。では3点あったと思います、リユース食器等はゴミの分別に関すること。それから封筒や広報誌のことについてです。

○ごみ減量推進課長

リユース食器については無料でお貸ししております。ただ先程申し上げた通り、あまり活用実績も多くないということ、今、事業自体も見直しも行っておりますので、ご意見をなるべく反映できるように検討してまいりたいと思います。また、区民の皆様からいただいたお問い合わせについてはこちらで全て回答と問い合わせ内容を記録しておりますので、やはり質問の多いものはリーフレット等で反映できるように検討していきたいと思います。ただ、こういう紙媒体だけでなく、最近はホームページや3Rアプリもありますので、そういうものも使ってなるべく区民の皆様にわかりやすいような普及啓発の方法なども考えていきたいと思います。

○環境政策課長

3点目の封筒ですとかそういった案内の広報誌についてですが、府内ももちろんエコアクション21の事業所としても率先していろんな削減や環境にやさしい行動をしていくというところは今回の基本計画にもありますので、もちろんしっかりとやっていくということで、実際使用はしているけれども表示がされていなかったりするものもあるのかなど、使用しているのであれば表示もしっかりとしていくところも大事になってきます。現状を確認しながら、各部署にも環境管理推進員や、それをまた情報発信していくデコ活リーダーズという職員の府内横断的にやっておりますので、しっかりと発信していきたいと思いますし、改めて注意喚起という形でやっていきたいなというふうに考えております。

○委員

緑に関する意見ですけれども、資料第7-1号の緑被率が下がっています。定義では目安値との差が10%未満であるので○ですけれども、増やそうと思っているものが減っているということは真逆のトレンドになっているのですから、これはかなり重視というか心配した方がいい項目かなというふうに思います。それから資料第7-2号の直近の数字を見ても、わずか1年でずいぶん緑被率やみどり率が減ってしまっていますので、おそらくですが、例えば再開発が起こると緑は今増える傾向にあると思いますが、逆に減っている部分があるはずで、どんなところで緑が減っているかの詳細な分析が必要かと思います。その上で、雨水流出抑制対策もあまり進んでいないので、うまく街路の再整備の中でグリーンインフラを入れて緑を増やし、雨水の流出抑制を図るということも新しいパイロットプロジェクトとして、必要なではと思います。

○公園緑地課長

緑被率につきまして、まず5年に1回調査しているというところが1点でございます。そういう点で折れ線グラフだと横になっているというのが現状でございます。今回の数字が減っているのは、特に大きかったのが2点ございまして、一つは街路の緑被率が減っていること。これはどういうことかと分析しますと、近年街路樹を剪定する際に、お金の関係もあって強剪定で強めに刈り込むことが多いです。刈り込んだ後に写真を撮ると、結構緑被率が減っているというところがございます。街路樹の本数としてはそれほど変わってないのですが、そのような点で減っているというところが一つでございます。もう一つの理由といたしまして、建物の建て替え等があって、たとえば古民家の庭に樹木があったところを伐採して建て替えているという点がございます。そういったところが大きい要因として考えております。今後の見込みといたしましては、例えば区役所横に南池袋2丁目C地区という再開発が進んでおりますし、今2件の再開発の工事が進んでおりますので、そういったところに空地ができて、空地の中に緑が植えられて高まっていくのではないかと想定されています。緑被率調査の時点ではカウントできなかった公園等もございますので、今後は数値が増えていくものと考えております。

○委員

ありがとうございます。街路樹の強剪定についてはたしかにコストの問題がありますが、同時に熱中症の対策にもなるはずなので、総合的な評価が必要かと思います。これはコメントです。

○環境政策課長

先程の雨水流出関係で、道路整備課長からお願ひします。

○道路整備課長

昨今、豪雨によって豊島区は特に下水の排水能力を超えるほどの大雨が降っており、なかなか排水しきれない点があります。内水氾濫を生じているようなところが出てきています。こういったことを踏まえまして、現在、雨水流出抑制の指導要綱を検討しているところでございます。何とか来年度から、指導要綱に基づいて抑制対策を進めていきたいということで取りまとめを行っているところでございます。特に、豊島区は雨水流出抑制の適地になっていますので、今検討していますのは敷地面積 1,000 平米当たり 60 立米を目安として、周辺の各区の状況や都の状況もいろいろと調べており、例えば敷地面積 500 平米以上の民間の開発に対しては指導を行っていくというようなことを考えております。あとは、その面積を下回る一般住宅の皆様方にもご協力いただけるように、助成についても検討を進めているところでございます。豊島区も遅ればせながら、こういった対策にも現在取り組んでおります。

○委員

ほとんど同じですが、緑被率がすごく減っているので、ネガティブな評価になるべきだと思います。10%以内かどうかではなくマイナスの傾向なので。それから、緑被率が減った理由として建て替えが挙げられておりますが、先程のお答えにもあったのですが、ぜひ大きな開発とか再開発のような場合にはしっかり指導していただきて、これから豊島区で緑被率が増える可能性というのは、そういう開発に伴って増やす、ネイチャーポジティブというかポジティブにしていくというところで、しっかりお願ひできればと思います。街路樹については強剪定ということで、これも先程あったように熱中症、今本当に熱中症の課題があると思いますので重要な点だと思います。それから緑視率のところで、樹木が生長したから緑視率増えましたとか、街路樹も緑は季節変化によってかなりデータが変わってくる（常緑、落葉）という状況があると思うのですが、モニタリングの方法や季節というのを、方法や場所は統一されていると思うが、季節を含めて統一していかないとデータそのものが信頼するに足るのかというところになってくるので、季節変化を前提にしていつ取っているのか、5年ごとにやっているようですが、統一が取れているのかというところが質問なのでお答えいただければと思います。それから緑被率というと、実質的に緑が植わっている土地が増えているのか、そのままなのか、減っているのかということと、緑視率の場合は、植栽地や緑化された場所が増えたのかどうなのかが問題なので、

緑視率、これ樹木が生長したから増えましたというのではなくて、植栽地が増えたのか土地が増えたのかという観点でも評価いただけるといいのかなというふうに思います。

○公園緑地課長

いくつかご質問がございましたが、まずポイントは、合わせてやるというところと、季節においても似たような時期にやっているというところでございます。緑視率が増えた要因といたしましては、やはり建て替えなどで緑化の義務等がございまして、そういったところで古い家が建て替えると、低木等もしくは道路に接道緑化等で緑を植えていくというところもございまして、そういった点で増えているという認識です。

○委員

樹木の生長と書いてあるが、基本的にはきちんと植栽地が増えている、緑化活動がなされているという理解でよろしいですか。

○公園緑地課長

樹木が大きくなっているところもありますが、植栽地も増えているという認識で結構でございます。

○委員

私は単なるコメントですのでお答えいただけなくて宜しいですが、環境教育の担当として連携・協働のところを見ると非常に高い成果指標になっており、取組指標も中間程度ということで頑張って取り組まれているのかなと思います。

他のところで例えばごみゼロデー参加率が下がっているところもありますが、単年度の取り組みで一喜一憂というよりは、長期的な取り組み、やはり環境教育は長期的に取り組んでいき継続してやっていくということが重要ですので、今の取り組みの成果というものが維持できるようにやっていただくのが一番いいのかなと思っております。引き続き豊島区の方には頑張ってやっていただきたいというふうに思っております。

○委員

先程の説明にもありましたけれど、コロナを経て講座等々あるいは講座に参加する方がかなり急激に減って、それが戻ってない状況ですし、リユース食器もそのような状況にあるということで、意識の変化に対して今後どのように働きかけていくのかということを新たに考えなくてはいけないというご説明があったのだと思います。今まででは割合、講座でも何でも成熟した大人に対する講座だったと思うのですが、若い人たちと一緒にやっていくっていうのがあってもいいのかなというふうに思いました。たとえば本日の学生さんたちの報告ですけれども、イケバスに乗って環境について学びましょうと、ぜひ今日発表いただいたような企画も含めてですね、何かイベントを開催していっていただいたら良いのかなと思いました。それと、先程ごみの分別が非常に難しいとか、そういうの

も今日の発表ではないですけれどもクイズ形式にして、それこそ防災関係ではカードゲームで防災を学ぶというのがあるので、豊島区のゴミについてカードゲームで学ぶとか、ご提案いただいたところも含めて新しい取り組みをしていただければと考えました。

○環境政策課長

若い人たちに向けての啓発というところが本当に重要と思っておりまして、学校教育の場やいろんな場でさせていただいておりますが、やはりやっている中で非常に今、若い子どもたちの世代、本当に環境についての知識も素晴らしく、そういう効果も実感をしていくところです。その人たちにかつて教育した子どもたちが今若者になっているということで、今日の発表にあったようにすでに教育を担う立場の若い世代もこうなっていただいているというところも、ぜひいろんな機会を捉えてですね、若者たちにも活躍してもらいながら、さらに若い世代にもしっかりと伝えていきたいというふうに考えてございます。

○委員

先程委員からもお話がありましたが、子どもたちってすごく環境についてちゃんと学んで、それをやっぱり意識するようになるのですね。私はずっと企業にいた時は食育活動をやっていたのですけども、食育も同じで、小学生はすごくよく覚えている。でもそれがだんだん大人になると忘れるのですよ。環境を、きっと小学校のときによく理解してこれからやろうと思うのだけど、だんだん大人になると忘れるのですよね、面倒くさくなつてやらなくなっちゃう。大人、ちょうど20代30代向けのイベントや参加できる教室ですね、そういうものをやはり強くやっていかないと、いくらイベントの人数が集まつても子どもやシニアばかりだったらいくらやってもきっと豊島区の環境の姿、理想とする姿にはなつていかないと思うのですよね。いかに若い人、若いというのは小学生じゃなくて20代30代の一番本当は必要なのだけど、働くことに汲々でそれどころじゃないというそういう世代ですよ。そういう世代にいかに環境に关心を持っていただけるかっていうのをちょっと考えていかないと、なかなか難しいかなというふうに思います。

○環境政策課長

ありがとうございます。子どもたち、中高生・大学生というところまでは確かに今ありますが、その先20代30代くらいのところもやはり途切れないように、非常に重要な視点だと思いますので、ご指摘いただきましたところもしっかりと進めていきたいというふうに考えております。

○委員

先程の緑被率の件ですが、今日教育委員会の方もいらしておられるので、一言だけ。学校の樹木の強剪定が結構ひどいです。私の住まい近くの小学校だと、これは強剪定じゃないですが、シンボルツリーのスタジイがもう瀕死の状態で、見るたびに悲しい気持ちになつ

ていくほどです。校長先生ともお話ししたりするのですが、校長先生や先生方は代わっていかれるので、長い目で教育委員会の方で、学校の樹木、近隣の方からも落ち葉とかいろんな苦情があるのは重々承知していますが、強剪定をあまりしそうないように何か手立てをしていただけたらと思います。この場を借りてお願い申し上げます。

○環境政策課長

今の状況もしっかりと教育委員会とも共有しながら、ご意見を踏まえてできるところを対応していきたいと思います。ありがとうございます。それでは、お時間になりましたので、質問は以上までとしたいと思います。

(会長の音声が途切れたため、副会長に交代)

○副会長

それでは第6期第7回の豊島区環境審議会を閉会させていただきます。最後に、初めに報告してくださった学生さんが1人残っておられますので、最後にもう一度、拍手で終わりたいと思います。オンライン参加の会長、皆様もありがとうございました。

提出 された 資料等	【資料第 7-1 号】 2024 年度における「豊島区環境基本計画 2019-2030」の進捗状況
	【資料第 7-1 号(別紙)】 2024 年度における「豊島区環境基本計画 2019-2030」の進捗状況
	【資料第 7-2 号】 2024 年度における「豊島区環境基本計画 2025-2030」の進捗状況
	【資料第 7-3 号】 「豊島区ゼロカーボン自由研究ツアーア」
	【資料第 7-4 号】 「カーボンニュートラルすごろく」